

## 土崎まちづくり拠点施設整備基本計画(概要)

### 1 本計画の位置付け

#### (1) これまでの経緯と目的

本市では、県都『あきた』成長プランに掲げる基本理念「ともにづくり ともに生きる 人・まち・くらし」のもと、行政と市民がともにまちづくりに関わり、「住み続けたいまち」をともに作り上げる「市民協働」の取組を進めてきました。

少子高齢化が進行し、人口が減少する社会情勢の中、元気な秋田市をつくり、将来に引き継ぐためには、市民一人ひとりが地域の歴史や文化などの個性に誇りと愛着を持ち、保存・継承や人材育成に取り組み、成熟した地域社会の形成を目指していく必要があります。

この考え方のもと、土崎地区においては、土崎歴史資料館建設期成同盟会からの提案（平成25年8月26日）を踏まえ、歴史と文化を活かした住民主体のまちづくりを支援するため、ワークショップにおける意見等を取り込みながら、今後のまちづくりの方向性をまとめた「土崎まちづくり基本構想（平成26年3月）（以下「基本構想」という。）」を作成しました。

#### 【まちづくりの方向性】

- ア 人づくり・にぎわいづくりと一体になったまちづくり
- イ 歴史と伝統の学習・継承
- ウ 地域・町内の絆の活用
- エ 多様な団体、活動のゆるやかな連携
- オ まちの魅力の見える化

こうしたまちづくりを推進するため、基本構想では、地域のまちづくり活動（ソフト）と人材の交流（ネットワーク）の拠点となる施設（ハード）の必要性を掲げました。

#### 【施設整備のコンセプト】

『土崎の歴史と文化を活かした

人づくり・まちづくり・にぎわいづくりの拠点』

#### 【想定する施設の機能と役割】

曳山の伝承、被爆体験の継承を中心に、展示機能、学習・伝承機能を有した、歴史・文化など地域の個性を活かし、港と町を一体化したまちづくりの拠点施設

#### 【施設建設地】

港と町を一体化したまちづくりの拠点施設として、土崎駅・神明社（町）とセリオン（港）を一直線に結んだ中間点に位置する旧土崎支所・土崎消防署跡地が最適

このような基本構想に基づき、今年度「土崎まちづくり拠点施設整備基本計画」を策定し、まちづくり拠点施設の整備計画を具体化するものです。

今後も、市民の皆さんが自らまちづくりについて話し合い、活動すること、そして市が市民の活動を支える環境づくりを進め、住民主体のまちづくりのさらなる推進を目指していきます。

## (2) 基本構想との関係

土崎の文化財や歴史的遺産は、地域のアイデンティティの核となるものであり、また、文化財や歴史、伝統を活かしたまちづくりは、地域の魅力の増大と活力の向上に寄与するものと考えます。

この基本計画は、基本構想を踏まえ、土崎の歴史・文化・交流の拠点として「港町としての魅力」に加え、「曳山の伝承」および「被爆体験の継承」など、その価値の顕在化と活用の先導的役割を果たす拠点施設整備のための基本的な方針や施設内容等についての方向性を明らかにすることを目的とします。

## 2 施設計画

### (1) 施設規模等

- ア 建設予定地 秋田市土崎港西三丁目 (3,874.93㎡)  
商業地域 (建ぺい率80%、容積率400%)、準防火地域
- イ 施設規模 約1,200㎡
- ウ 構造規模 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造) 2階建
- エ 概算工事費 698,000千円  
※ 被爆倉庫移築経費含む。
- オ 施設機能 インフォメーション  
常設展示室  
曳山展示ホール  
伝承室  
空襲展示ホール  
企画展示室  
学習室 等

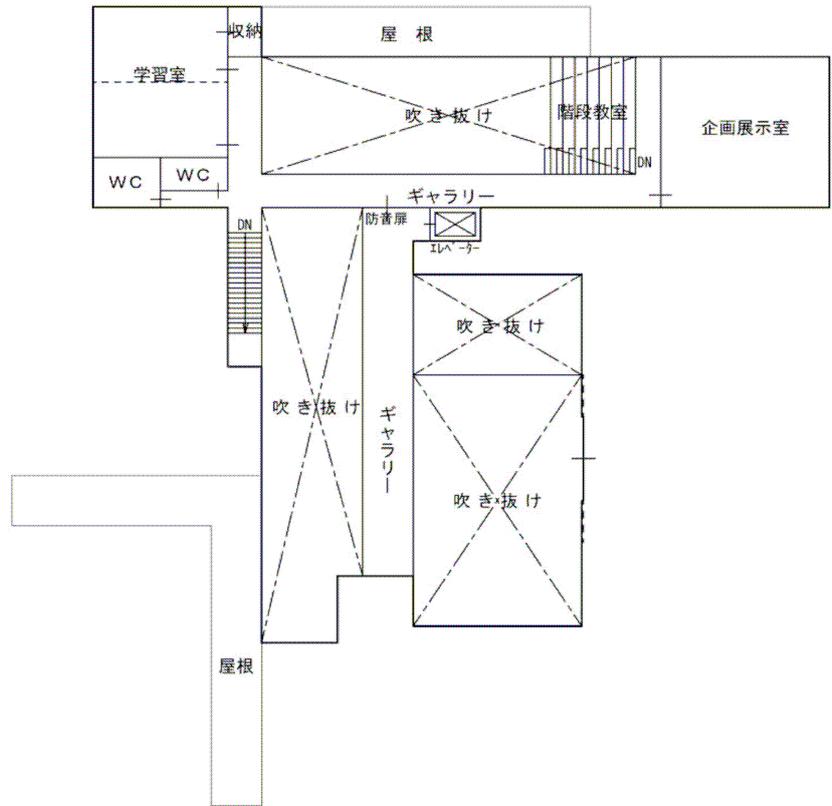
## (2) 施設機能と基本的な考え方

施設機能	基本的な考え方
インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入口に設置</li> <li>【展示の方向性】</li> <li>・大型地図、映像資料などで土崎の史跡・名所を案内、紹介</li> <li>・まちの魅力の紹介を随時追加し、土崎のまち歩きの情報提供</li> </ul>
常設展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーションと連続した、歴史を紹介するスペース</li> <li>・時代別や特定テーマ毎に複数のコーナーを設置</li> <li>【展示の方向性】</li> <li>・パネル、写真、実物資料、音声・映像などによる「みなと」をテーマとした土崎の現在と過去をつなぐ展示</li> <li>・「中世」「近世」などの時代別、又は「北前船」などの特定テーマ毎に土崎の歴史を紹介する展示</li> </ul>
1 階 曳山展示 ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曳山の実物を展示するスペース</li> <li>・吹き抜けとし、一部ガラス張りで外部から曳山が見える</li> <li>・可動間仕切りにより、伝承室と一体的な活用が可能</li> <li>・曳山を背景に囃子・踊りの実演が可能なスペース</li> <li>・イベント時に曳山の出し入れができ、屋外の広場と一体的な活用が可能</li> <li>【展示の方向性】</li> <li>・展示する曳山は高さ10m程度を想定</li> <li>・壁面などを利用し、曳山の歴史や祭りの概要など曳山行事の一連の流れをパネルや写真で展示</li> <li>・モニターを設置し、曳山祭りの風景や歴史等を上映</li> </ul>
伝承室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曳山展示ホールと一体的な活用が可能なスペース</li> <li>・祭り・イベントの際に活用できる調理設備を設置</li> <li>【展示の方向性】</li> <li>・曳山組立てなど伝承のための講座や体験学習の実施</li> <li>・お囃子・踊りの練習</li> <li>※ 夜間も練習等に使用できるよう、地域と連携した弾力的な施設運営を検討する。</li> </ul>
空襲展示 ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧日本石油秋田油槽所被爆倉庫を展示するスペース</li> <li>・語り部の話を聞く会、朗読会等の開催が可能な階段教室を設置</li> <li>【展示の方向性】</li> <li>・被爆倉庫の一部を移築展示</li> <li>・戦争、被爆関係の実物資料や映像資料、パネル、写真等を展示し、土崎空襲の歴史をビジュアルで紹介</li> <li>・戦争や被爆体験の語り部による講話、朗読会などの開催</li> </ul>

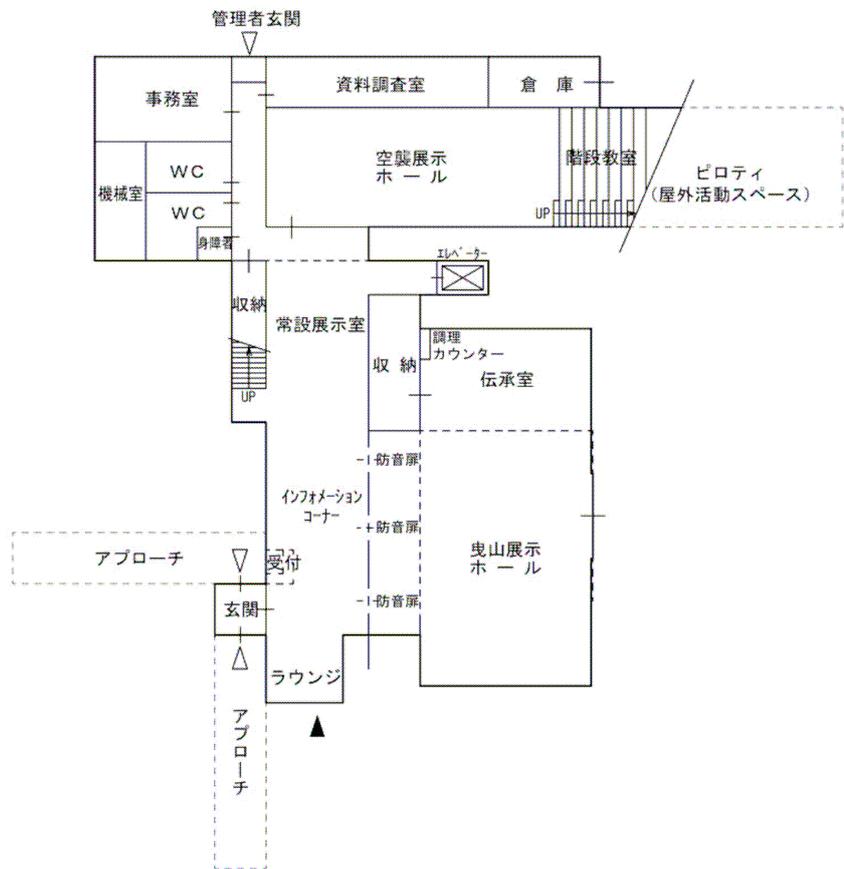
施設機能		基本的な考え方
2 階	企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展をはじめ各種事業の実施可能な多目的展示室</li> <li>【展示の方向性】※ 企画展のイメージ</li> <li>・曳山・空襲・常設展示を掘り下げる企画展示</li> <li>・他都市の曳山や戦争資料のパネル展示</li> <li>・新たな調査研究、児童・生徒の学習成果等の紹介</li> </ul>
	学習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査室・倉庫（1階）の資料閲覧、小中学生や市民などの学習・調査、発表会、地域行事の打ち合わせに使用できるスペース</li> <li>・可動間仕切りにより分割使用可能</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・曳山展示ホールおよび空襲展示ホールは、相互の展示内容や活用に支障のないよう、1階・2階とも防音に配慮する。</li> <li>・エレベーターを設置する。</li> <li>・2階通路は曳山を望むことができ、ギャラリーとしても使用</li> <li>・駐車場は30台程度を想定</li> </ul>

(3) 各階平面

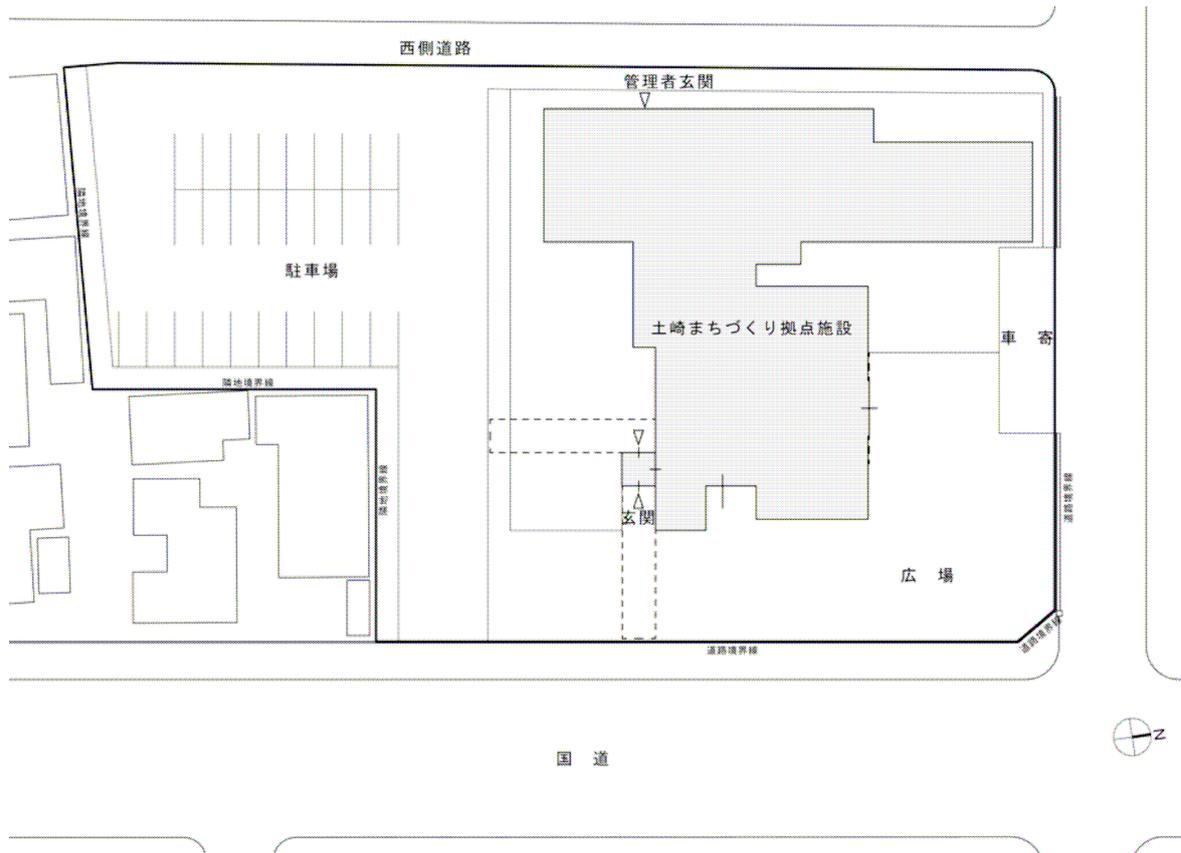
■ 2階平面図



■ 1階平面図



#### (4) 全体配置計画



#### (5) 工程計画

平成27年度	基本設計・実施設計、地質調査、展示計画策定等
平成28年度	家屋等事前調査、建設工事、展示実施設計
平成29年度	建設工事、家屋等事後調査、展示実施作業 3月開設予定

### 3 管理・運営の方向性

#### (1) 基本方針

土崎まちづくり拠点施設は、地域の歴史と文化を活かした住民主体のまちづくりの拠点であり、地域住民が土崎港曳山まつりの伝承や土崎空襲被爆体験の継承に最大限に活用し、土崎の歴史を未来に伝えるとともに、まちづくりの人材育成にもつなげていくことが望まれます。

地域の実情に即した有効な活用と、地域と連携した事業が実施できる管理運営体制が必要なことから、地域団体による「指定管理」を基本とします。

#### (2) 運営体制

拠点施設では、港曳山まつりのお囃子や踊りの練習、各種講座、土崎空襲に関する読み聞かせや講演会の実施を想定していることから、指定管理を担う地域団体は、土崎港曳山まつり、土崎空襲に関係する団体のほか、土崎の活性化を目指すまちづくり関係団体の代表等で構成することが望ましいと考えます。

具体的な運営体制は、平成27年度中に地域と協議していくこととします。